

安保・戦争国会粉碎へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2015年6月1日
No.298

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

5/30 京都市内デモぶち抜く!

5月30日、京都市内で「戦争反対」「安倍政権打倒」を訴えるデモ行進を行いました。呼びかけは、京都大学全学自治会同学会中央執行委員会です。

京大では現在、2015年度中央執行委員会予備選挙の真っ最中です。この選挙を京大生だけでなく広く社会に知らせることで、京大で反戦を闘う学生自治会・学生運動を復活させる意義をあらためて捉え返そうという目的でデモが企画されました。

デモに先だって、三条土下座像の前で宣伝活動を行いました。中央執行委員会とともに闘う仲間が安倍政権の安保関連法案の閣議決定を弾劾し、デモへの結集を呼び掛けました。通行人の反応は上々で、サークル活動中にたまたま通りかかった京大新生は「応援しています」と、署名に応じてくれました。京都市内で教えているという中学校教員も「京都にこんな学生がいるとは知らなかった」と、喜んで応援してくれました。入れ替わり立ち代わり行われる演説に多くの注目が集まり、赤と黄色の「6.15国会包囲デモ」のビラが次々と受け取ら



れていきました。

その後、三条大橋のたもとに移動し、デモ前集会を行いました。大森靖之委員長がデモの意義を提起し、瀬瀬貴文副委員長が京大の闘いの前進を報告しました。橋の上を行き交う京都市民、学生、観光客が足を止め、写真を撮り、発言に耳を傾けました。集会の最後に作部羊平書記長が「安倍政権は倒せる! 国会デモで展望を見せつけよう!」と呼びかけ、デモに出発しました。デモコースとなっている河原町三条から四条通りには市内随一の繁華街で、土曜日の昼間ということもあり、大勢の人出で賑わっていました。そこに「戦争反対!」「安保粉碎」「大学改革粉碎」のコールが太鼓のリズムに乗せて響きました。「大学の非政治性には嫌気が差した!」「常識を疑う場所ではなかったか!?!」など、京大生の率直な怒りを表すコールも聞かれました。少人数ながらも、意を決して街頭に飛び出した学生への注目はものすごく、比較的短いコースの中でも手を振って応えてくれる人が何人もいました。

戦争法案粉碎! 安倍たおせ!

〈6・15国会包囲大闘争〉

6月15日(月) 国会・霞ヶ関デモ <正午に日比谷公園霞門集合>
終日、座り込み行動(朝9時から開始)

〈国鉄闘争全国運動6・7全国集会〉

～国鉄1047名解雇撤回! 闘う労働運動の再生を!～

6月7日(日) 13時～ @東京・日比谷公会堂(正午開場)

【呼びかけ】国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動(国鉄闘争全国運動)





30度を超える夏日の太陽の下、20分間の渾身のデモを貫徹しました。全員、大粒の汗を光らせ解放感に満ちていました。解散地点の公園で選挙の勝利と国会デモの成功を誓い、団結ガンバローと声を上げました。全国の仲間とともに、6.15決起—安倍打倒に突き進むぞ！（A）

◆沖縄闘争の感想(京都大学・瀬戸貴文)

大学に入学してから4回目の沖縄闘争であったが、今年が一番の盛り上がりだった。それもそのはずで、現実には安倍政権が辺野古新基地建設を「粛々」と進めており、戦争に向けた安保法制も着々と整備されつつある。それも国会や知事といった最低限の手続きすら無視して、である。そして忘れてはならないことが、沖縄の本当の怒りは戦争そのものに対する怒りだということだ。17日に行われた沖縄県民大会は主催者発表で3万5000人の結集で行われた。この集会では「オール沖縄」の立場から色々な発言があったが、元ひめゆり学徒隊の方と沖縄国際大学の学生だけが戦争反対を明確に発言していた。このような思いは戦争体験者の話を聴くにつけ、必ずといっていいほど突きつけられる思いである。そしてそれは私たち本土の、沖縄に心を寄せる人も共有する思いである。

この根底的な思いに対して、どのような道が可能だろうか？集会の指導的な人物の発言や全体の雰囲気からは、まだ路線が定まっていなかったようであった。つまり、「辺野古基金」に本土から2億円集まったということが語られる一方で、沖縄のアイデンティティーが強調されたり、本土の基地負担が求められたりと、本土と沖縄がどのような形で作っていきべきかがはっきりしなかった。最終的には翁長知事の「誇りある日米同盟論」（日本全土で米軍基地を負担すべき）に集約されてしまったが、それでは沖縄の、そして本土の根底的な「戦争反対」という思いは果たされない。集会の後、私たちは戦争反対・復興策反対の全島ゼネストを呼びかけるデモを行った。デモには集会帰りの方が飛び入りで参加し、沿道からも声援が続々と送られた。ゼネストは沖縄で1971年に実際に闘われている。その記憶がまだまだ残っていたのだ。

私はここに戦争をとめる展望があると考えます。新基地建設だけに反対しては、本土にオスプレイがやってきて結局戦争になるだけである。私たちは本土にあって、そして京都の地から本当の意味で本土—沖縄連帯、つまり戦争絶対反対の闘いを始めなければならない。沖縄でゼネストが起きたとき、それと連帯して本土でもストライキが起こっている。その経験を今に生かすときだ。今回の京大同学会中執選挙でもそれを訴えている。この京大の中から反戦の実力闘争を開始していこう。



【当面する行動方針】

●韓国・民主労総ゼネスト連帯！ 6・28集会

6月28日(日) 13時半～ 東京・江戸川区総合文化センター大ホールにて



●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 11時～ 東京地裁419号法廷にて ※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

●安倍をとともに倒そう！ 7・5大集会

～「7・1 集団的自衛権閣議決定」一周年 改憲・戦争・原発・首切りのABE TAOSE!～

7月5日(日) 13時～ 東京・ニッショーホール(消防会館2F)にて

【主催】許すな改憲！ 大行動(改憲・戦争・原発・貧困許さない大行動 <http://yurusunakaiken.com/>)